

令和 6 年度

事業所名 : あお空グループホーム山田

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393000120		
法人名	有限会社 介護施設あお空		
事業所名	あお空グループホーム山田		
所在地	岩手県下閉伊郡山田町山田第19地割51番地1		
自己評価作成日	令和7年1月9日	評価結果市町村受理日	令和7年4月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhvu

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かで澄んだ空気の中、利用者の皆様には日々ゆったりと過ごして頂いております。心で見守り笑顔で支えるを理念に掲げ、簡潔であるがそれ故に職員に浸透していると実感しています。利用者様やご家族様の意向を把握し、その意向に沿えるよう努めています。その時期に合った旬の食べ物の提供を心掛け、誕生会やイベント時のケーキは職員の手作りで制作し、利用者様には好評をいただいております。昨年より、毎月利用者様の近況や写真をご家族様に送付し、その都度の状態をご報告させて頂くようにしました。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和7年2月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然環境に恵まれた山間部に事業所があり、周囲には民家が点在し、散歩している近所の方々が利用者を見かけると手を振ってくれたり、利用者の友人や知り合いが面会に訪れることも増えている。新たな理念を掲げて3年目となり、職員の利用者対応で気になることがあれば、「『心で見守り笑顔で支える』だよ」とお互いに注意しあい、職員に浸透した理念となっている。利用者の普段の様子を写真に撮り、近況と一緒に毎月家族に届けている。イベントの様子とともに、家族には大変喜ばれており、家族と事業所の信頼関係が深まっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

事業所名 : あお空グループホーム山田

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、事務室内、ホールの3か所に理念を掲示しています。毎朝の申し送り時に理念を発声している。	令和4年4月に掲げられた新たな理念『心で見守り笑顔で支える』は、職員が目指すものとして事業所に浸透している。利用者の対応で気になることがあると理念に立ち返って検討し、職員相互に注意し合える環境ができてきている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム前の道路を通行する近隣の住民の方や近隣施設の利用者様などに手を振って頂いたり手を振ったりと交流している。運営推進会議には地域の自治会の区長さんにも参加していただき地域の情報を提供していただく事もある。	町内会には加入していないが、地区清掃には職員が参加している。以前は地域の関口剣舞を事業所で披露してもらっており、改めて再開をお願いしたいと考えている。職員が認知症についての相談を受けることもあり、地域の認知症の拠点としての役割を果たす方法を検討中である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の山田中学校の生徒さんの福祉体験を受け入れ、グループホームの内容や介護についての説明をさせて頂いた。また、認知症初任者研修の講師としても協力させて頂きました。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では日程・行事報告、身体拘束廃止検討についての活動報告、利用者様の近況報告等を行い、助言を頂戴しています。利用者様のご家族様にもご参加していただき、運営状況をお伝えしています。	運営推進会議は2ヵ月に1回、参集方式で開催している。委員は区長、民生委員、地域包括支援センター職員、食生活改善推進員、社協職員と利用者の家族で構成されている。利用者の状況を丁寧な報告することで、事業所の取り組みを理解してもらっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	虐待疑いのある利用者様の紹介・受け入れや面談に立ち会って頂いたりして、困難な事例があった場合には相談に乗って頂くこともあります。	町の地域包括支援センター職員には運営推進会議への出席のほか、利用者についての様々な相談を持ちかけ、情報共有に努めながら必要な助言を得て、適切な支援につなげている。町主催の認知症セミナーに係る封筒の塗り絵等の作業依頼があり、利用者とともに取り組み完成させた。町とは協力体制が取れている。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム山田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回、身体拘束廃止検討会議と研修を行っています。また、その内容を運営推進会議でもご報告している。目標達成計画であった身体拘束に関する職員の自己評価は年度内に行う予定です。	日中玄関は施錠しておらず、外に出たがる利用者の対策として、玄関周囲2カ所にセンサーを設置している。家族に説明の上で夜間の転倒予防のため、ベッドサイドセンサーを活用している。権利擁護や身体拘束廃止についての研修会を実施しており、3月には職員自身のケアについての振り返りを行い、研修内容の理解度を把握したいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止に関する研修と同日に高齢者虐待に関する研修も行っている。日常においての些細な言動も意図せず虐待となっている事もあるので職員間で確認しアドバイスし合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用している方はいませんが、今年は日常生活自立支援について研修を行った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には契約書や重要事項説明書の内容を口頭で説明させて頂き、入居に際し不明な点があればその都度説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様同士での会話内容や職員との対話の内容から不満や要望を摘み取るようにしている。ご家族様からは面会時や受診に立ち会って頂いた際に聞き取ったり、直接電話でお伺いする場合があります。	昨年から、利用者個々の近況を普段の写真とともに家族に毎月お届けし、家族との情報共有につなげている。家族からは利用者の好きなものを飲ませてほしい、少額の現金を持たせてほしいとの希望があり、話し合いの上で対応している。言葉で意思を伝えることが難しい利用者には、直接声掛けをしてうなずきや表情を観察し、意向の把握に努めている。	

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム山田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	主に申し送りや職員会議時、管理者より職員に対しお伺いを立てて意見を聞くようにしています。また、連絡ノートを活用し、気になることは記入して頂いています。出された意見には出来るだけ早急に対応させて頂いています。	管理者は、職員が話をしやすい環境作りを目指し、月に1回の職員会議や日々の申し送りの際に、職員の意見、提案の把握に努めている。エアコンや洗濯機等の不具合やS字フックの利用等について意見があり対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフトを作成する際に休暇の希望を募り、出来るだけその要望に対応させて頂いています。夜勤の回数や長期休暇の要望にも対応させて頂いています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加はコロナ以降控えています。オンライン研修や自施設内研修にてスキルアップを図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の他グループホームの推進会議に参加させて頂き、情報交換しています。また、先方の管理者さんにも運営推進会議に参加して頂き、アドバイスを受けてたりしています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規で入居された利用者様には特に配慮し、不安そうな表情や心配なことなどに耳を傾けるようにしている。その情報を職員間で共有し、ケアの参考にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の面談あるいは入居当日の契約の際に入居後における不安点や要望をお聞きし、ご説明させて頂いています。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム山田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居当日の契約の際に今後のサービスの方針をお伝えし、職員とも情報共有し対応している。数日後に入居後の経過をご家族様にお伝えし、更なる情報があれば参考にしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は出勤時には利用者の皆様に挨拶をするように努め、1日の内に1度は利用者様の座席に同席し会話やふれあいの時間を持つようになっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年度より、毎月1度の割合で利用者様の近況をご家族様に送付させて頂き、その都度の状態をお伝えしています。また、日常生活やイベントなどを撮影した写真数枚もお送りしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	診察で病院に行った時に古い友人と再会し、今度面会に伺いますという運びとなった例もあります。また、遠方におられる弟さんから手紙を送って頂き、返信の手紙を書くお手伝いをする事もありました。	病院で会った友人がその後来訪し、談笑できた利用者もいる。手紙を出したい、電話をかけたいという場合には、関係性を継続出来るよう職員が支援し、自宅に行きたいという利用者の希望については、家族と相談し対応している。ドライブ中に昔の職場の近くを通った際には、利用者は懐かしそうな表情を見せてくれる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	主な生活の場となるホール内の座席には特に配慮し、利用者様からの直接の意見や要望を聞き入れ、座席の変更などへの対応に反映させて頂いています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後に相談に乗った事例はありませんでしたが、退居時に声をかけいつでも相談の受付はしている旨をお伝えするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段のさりげない利用者様同士の会話や、職員との対話、あるいはレクリエーションのクイズ時に要望や意向を聞き出し、職員間で共有し検討しています。	利用者同士で話が盛り上がる事が多く、職員も一緒に話に加わり、利用者の発言やつぶやきを注意深く聞き取り職員間で共有している。利用者とは1対1で話をする機会も大切にしており、その中で耳にした利用者の趣味の話から、生き生きとした表情を引き出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規入居前に利用していたデイサービスや短期入居時の情報も活用し、日々のケアの参考にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様個別に食事の摂取状態、排泄状況、バイタルの状態または医師からの助言により日々の状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1度の割合でカンファレンスを行い、検討した結果を基に介護支援専門員が介護計画を作成している。かかりつけ医の指示や助言も参考にし計画作成に反映しています。ご家族様の要望も都度聞き入れて計画作成に取り込んでいます。	職員全員が参加するカンファレンスの場でモニタリングを行い、利用者の状況について共有することが出来ている。それらの結果をもとに、かかりつけ医の指示や家族の要望も加味して、介護支援専門員が介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様個別の観察記録や日誌、連絡ノートを用い、スタッフ間で情報の共有をしています。毎朝の申し送りには各種記録の内容を伝え、共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様からの要望(例 ~さんという親戚が面会に来て面会させないでほしい等)があった場合には、職員に通達しチームとして対応できるよう努めています。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム山田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	2か月に1度のペースで町内の床屋さんに来所して頂き、利用者様の散髪をして頂いている。また、夏には町内の中学生に福祉体験で訪問して頂き、利用者様と触れ合う時間を設けることが出来ました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に入居される前からのかかりつけ医を受診するようにしていますが、病状、症状が悪化した場合にはご家族様に相談し、希望される病院を受診できる体制を取っています。普段の受診は職員の対応で行っていますが、症状の変化がある場合や医師の説明を受けたいという場合にはご家族様にもご同行して頂いています。	利用者は、入居前からのかかりつけ医を継続して受診している。基本的にほとんどが職員の付き添いで受診し、受診時の状況は家族に説明している。病状が変化した場合には、家族にも同行をお願いし一緒に説明を聞いていただいている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月に1度の割合で社内に配置された看護師が来訪していて、体調や症状が悪化した場合には24時間体制で連絡を取れる体制を整えています。緊急時にも適切なアドバイスを受けられるようにしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院となった場合には、医師からご家族様への説明の際に管理者も同席し、病状や治療方針の説明を受けています。また、入院の際にはホームでの状況を看護師に伝え、入院生活に反映して頂いています。退院の際には看護サマリーを頂き、退院後の生活に役立てています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	町内に訪問診療を行っている医療機関が無いため、現状ではホームでの看取りは不可能な状況です。入居時に本人やご家族様に対応していない旨を伝え、了承を得ています。	事業所では看取り介護は行っていない。経管栄養や吸引、点滴等の医療的な処置を事業所で行うことは、難しいと考えている。但し、重度化、重症化した利用者の介護を行う機会も増え、ミキサー食、トロミ食の食事介助、シャワー浴や清拭等の支援は行っている。急変時には救急搬送対応となることから、管理者は、救急搬送時のマニュアルを整備し、職員がスムーズに動くことができるようにしたいと考えている。	

事業所名 : あお空グループホーム山田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職場内の研修にて緊急時対応のスキルアップを図っています。実際にあった救急要請に関しては後日職員間で話し合い、内容を確認しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日勤想定火災避難訓練、夜間想定火災避難訓練、水害避難訓練の3回を年間で行っています。訓練終了後には職員から気づきや反省を提出して頂き、今後の参考にしています。ご近所宅に火災の場合に避難場所としてをお願いをしています。水害時はハザードマップの危険水域外になっているため、当ホームの2階を避難場所としています。令和6年3月にBCP作成しました。	昨年の台風5号の際には、町内に高齢者等避難が発令され、2日間事業所の2階に避難した。訓練は全て日勤帯に実施している。日勤想定火災訓練は消防の立ち合いの下で実施し、様々な気づきを得ることができている。避難時は近所の方に支援をお願いしているが、訓練への参加依頼は行っていない。	夜勤が一人体制であり、2階に7人の居室があり、車椅子利用者もおり利用者の重度化が進んでいることから、夜間に火災が起きた際にいかにして利用者の命を守るかは喫緊の課題です。そのため薄暮時に夜間想定訓練を実施し課題を明らかにしていくことに併せ、運営推進会議で安全な避難方法について消防の助言も得て検討し、それを反映した訓練の実施が期待されます。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居の際に契約の書面にて個人情報に関する旨をお伝えしています。利用者様の広報への写真の掲載についても事前に確認を取ったうえで対応しています。ケアにおいての異性対応に対し抵抗がある場合には十分配慮し対応しています。	午睡の有無、食事時間、入浴のタイミング等について利用者の選択を尊重し、無理強いせず支援している。異性による支援は、声かけをしっかりと行いながら、それぞれの場面に十分配慮して行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話や言動から利用者様の思いを察知し、希望に沿える場合には対応させて頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課における起床や就寝のタイミング、入浴するかどうかの決定、旬の食材の調理方法など、希望に沿えることには対応させて頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧品や乳液等を持ち込まれる利用者様もいらっしゃって、自身で使用される方もおります。衣類はなるべく自分が着たいものを選ぶよう配慮しています。		

事業所名 : あお空グループホーム山田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テレビやYouTubeのグルメ番組など見ていて、美味しそうと話していたメニューは実現出来るよう努めています。食事の盛り付けや下膳を職員と共にして下さる利用者様もおり、山菜の時期には皮むきや芽取りなど賑やかに会話しながら行っています。誕生会やイベント食には必ず手作りケーキを提供し、好評を得ています。	朝夕の副食は冷凍食品を活用し、ご飯とみそ汁は手作りしている。利用者が食べたいと希望した献立は昼食に手づくりで提供している。野菜の下準備や盛り付け、下膳は利用者も一緒に行っている。誕生会やイベントでの職員手作りケーキは好評である。今後は外出の際の飲食機会を増やしていきたいと考えている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量と水分摂取量はチェックシートに記入し把握しています。熱中症の時期には脱水防止の為特に気を付けています。嚥下に問題のある方はミキサー食で提供し、必要であればトロミをつける対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後にうがい、義歯洗浄を行い、毎日夕食後には義歯の消毒を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿、排便はチェックシートを用い、日々の回数を把握しています。以前は夜間に自室内でポータブルトイレを使用していましたが現在は自力でトイレに通えるようになった方もおります。	排泄チェックシートの活用によりパターンを把握し、個別に促している。夜間の排泄支援は2階廊下に設置されたカメラを活用し、職員は利用者の動きを察知して適切な支援を行っている。便秘予防のために、毎日ヨーグルトを提供し、汁物は野菜を多く使用した献立としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前の間食時にはおやつとして毎日ヨーグルトを提供させて頂いており、飽きの来ないようにソースや果物等を変更し提供しています。個々の便秘周期が違っているため、かかりつけの医師に相談し、下剤の調整をして頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低でも1週間に2回入浴して頂いております。長湯が好きな利用者様もいらっしゃいますが、体調を崩さぬようタイミングを見計らって促しています。体調が悪い為入浴しないと話される方はもちろん、拒否された方にも柔軟に対応しています。	日曜日以外に1日3名程度、少なくとも1週間に2回の入浴を確保している。体調の思わしくない利用者については様子を見ながら声掛けしている。入浴を楽しめるよう菖蒲湯、柚子湯や入浴剤を使用し、ゆったりと入浴できるように工夫している。職員と1対1での入浴では、若い頃の話や食べたい物などの話が弾んでいる。体調に合わせてシャワー浴も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝の起床、夜の就寝時間に関しては利用者様個々のタイミングに合わせ、柔軟に対応しています。眠れないと起きてこられた方にはホットドリンクを提供したり、職員と会話したりテレビを見てから休んでいただく場合もあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全ての利用者様のお薬は職員がお預かりし管理させて頂いています。誤薬が起らないよう袋に記載してある日付、時間、氏名を呼称し対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作業や日課を行って頂いた際に感謝の気持ちを伝えるよう気を付けています。声の掛け方により達成感や喜びを感じて頂き、次回も頑張ってもらえるよう配慮しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は大きなところでは花見ドライブ、紅葉ドライブに出かけています。コロナにて自粛していた外出でしたが徐々に出かける機会も増えて来ています。ご家族様が外出を希望され、日帰り出かけた事もありました。	天気が良い時は玄関前に腰掛け、近くを通った近所の方々と会話を楽しんでいる。近くの神社に受診後に立ち寄り初詣に出かけている。職員と一緒に買い物に出かけたり、天気が良いからどこかに行くかということも増えている。花見や紅葉狩りにも出かけており、今後外出の機会を更に増やしたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に利用者様がお金を持つ事は不可であることをご家族様にお伝えしていますが、少量のお金を所持している方はいらっしゃいます。お金に関しては預かり金という形で職員が管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から電話の取次ぎを依頼された場合には対応させて頂いており、逆にご家族様からの取次ぎ依頼にも対応しております。手紙に関してもご本人にお渡ししたうえで返事を書きたいとの申し出によりお手伝いさせて頂き、お送りしています。		

令和 6 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : あお空グループホーム山田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段ほとんどの時間を過ごされるホール内はエアコンにより温度の調整を行い、冬季は加湿器も利用し乾燥しないようにしています。窓際の方は日差しが強いとまぶしい場合があり、ブラインドで日光の調節をしています。排泄物においても気を配り、消臭スプレーや芳香剤を使用し軽減を図っています。ホール内の装飾は、不定期ではあるが概ね1カ月に1度交換し季節を感じ取って頂けるようにしています。	2階建ての事業所で館内はエアコンと加湿器により過ごしやすい状態に保たれている。居室は1階に2部屋、2階に7部屋あり、2階の利用者はエレベーターで移動している。ホールは日差しが入って明るく、壁には利用者の習字作品やひな人形が飾られている。転倒予防のため、洗面台の周囲の水撥ねや食後の椅子周りの濡れには細心の注意を払っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様間での情報や職員との対話を基に座席を決めています。最近は大きなトラブルはありませんが1人になりたい場合には居室にて過ごしている方もおります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室にコルクボードを設置し、写真や作品などを貼り込んで装飾しています。故人の遺影を持ち込んでいる方もおられる。テレビやソファを持ち込んでいる利用者様もおります。	居室には、ベッド、筆筒、エアコン、クローゼットが備えつけられ、身体状況に応じて施設の車椅子やポータブルトイレを使用している。テレビやソファ、衣装ケースなどを持ち込み好みの場所に置いている。壁に設置されたコルクボードには、イベントや普段の様子を写した写真などが飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーとなっていて、独歩可能な方も歩行しやすいです。1階と2階の移動はエレベーターを使用しています。トイレや浴室には誘導札を設置し場所を認識できるようになっています。		